

## 香川県満濃町にミスミイが自生

久米 修

1990年10月14日に実施された香川植物の会現地観察会において、香川県仲多度郡満濃町炭所西江畑東に所在するため池「西山池」で、ミスミイ *Eleocharis fistulosa* の生育が確認された。

これまで香川県ではミスミイの生育は知られておらず、手持ちの図鑑類にも四国の分布記載が見られない。そこで確認のため、神戸大学の角野康郎先生に標本をお送りするとともに、全国的な分布の実態をお尋ねした。この度角野先生より、本品はミスミイで誤らない事と、国内分布は本州（東海、近畿）、九州で、今回の四国での確認で、本州と九州の産地が繋がった旨のご教示をいただいた。

西山池の位置する立地は、山すそに開けた段丘上であり、上方山地の植生はアカマツ林、下方周辺部の水田の畦にはウメバチソウが見られた。西山池周辺部の地質は、鮮新世の湖沼性堆積物である三豊層群に属している。西山池は、この台地状部をたらい状に掘り下げた、長楕円形の面積約50㎡ほどの小さなため池である。調査日が降雨後であったためか、水色は暗青灰色で、透明度も悪く水底は見えなかった。水草類の生育状況から、水深は最深部で2 m程度と推定された。

ミスミイは、西山池の岸寄りの一角に、先端部を20cmほど水面から出し、約2㎡の範囲で群生していた。標本用に採集したミスミイは、稈の長さ70~80cm、幅2~3mm、花穂の長さ2~4cm、幅3~4mmで、地下茎でつながったものも得られた。

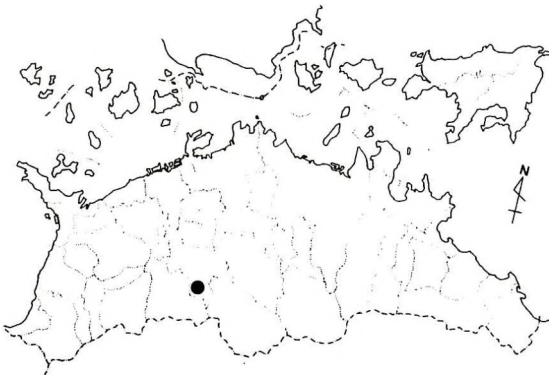


図1. 香川県産ミスミイの生育地

他に西山池で同時に観察された水草類は、イヌタヌキモ、ジュンサイ、フトイ、カンガレイ、ハリイの1種、コアゼガヤツリ、アシカキ、ツルヨシ、フトヒルムシロであった。

## ウキクサの殖芽の寿命

浜島 繁隆

ウキクサは秋、殖芽を形成するが、冬には葉状体が枯死するため水底に沈み、そこで越冬する。この殖芽は水温の上昇する春に再び発芽し、水面へ浮上する。これが水田にみられるウキクサの生活環である。

休耕田として何年も放棄された水田に、春、水がはられ、代かきが行われると、ウキクサが突然あらわれてくるのを観察したことがある。これは泥の中で休眠していた殖芽が、代かきで外にあらわれ発芽したものと考えられる。このことは、殖芽は発芽条件が悪ければ、何年も泥中で休眠していることを示している。これを確かめるため、つぎのような簡単な観察を1986年から始めた。

ウキクサを水槽内で培養し、9~10月頃葉状体から分離し、水底に沈んでくる殖芽を採集して観察に使った。採集した殖芽は、水道水を入れたサンプルビンに各20個ずつ入れ室内暗所に保存した。毎年、7~8月にサンプルビンに入った殖芽を室内明所に出し、約1週間放置し、その間に発芽した殖芽の数を調べた。その結果、2年間は高い発芽率を示すが、3年目頃から低下がはじまり、4年目には急激に減少するのがみられた(表1)。このような貯蔵法では殖芽の寿命は4年程であるが、水田の泥の中は、室内と比べ夏季の著しい水温上昇がみられないことや無酸素状態に近い環境にあることで、さらに長期間生存し続けることが予想される。

なお、この観察に使用したウキクサは、別府敏夫博士が系統保存をしているNo.421の株を用いた。材料を提供いただいた別府氏に感謝する。

表1. ウキクサ殖芽の発芽率変化

発芽試験年	1987	1988	1989	1990
貯蔵年数	1	2	3	4
発芽率(%)	100	93	78	5

(殖芽数各40個)